

「教育」の枠を外す旅へ。

学びのフィールド実践体験プログラム in おおくま

教育インキュベーション推進機構 / 教育インキュベーションセンター

教育に、インキュベーション (0から1) を。



【ミッション】

「必ずこうしなければいけない」という生真面目な思い込みを外し、教育本来の「面白さ」を取り戻す。

【アプローチ】

大学に閉じず、多様なステークホルダーとの共創により、教育に新たな価値(ゼロからイチ)を創り出す。失敗を「善し」とする挑戦の場を提供します。



なぜ今、地方の教育委員会と連携するのか？

教育は「**学校の中**」だけで完結する専門領域ではなくなりました。
急激に変化する社会において、**地域のリアルな課題や実情**に触れ、
自治体と共に未来の教育を構想する「**実践のフィールド**」が今、不可欠です。



教育実習とは異なる、「0から1を体感する」体験

既存の「教育実習」
完成されたシステムに「適応する」場
決められたカリキュラムと「先生としての役割」の遂行
教室という閉じられた空間での決まった関係性
正しくできたかを「評価される場」

【環境】

正解のない地域・環境で「共創する」場

【役割】

自ら問いを立てる教育の「デザイナー」としての視点獲得

【交わり】

地域・学校・0～15歳の子どもとの偶発的な「ごちゃまぜ」

【評価】

思い切り挑戦し、「失敗できる場」

本プログラム

舞台は、復興と未来創造の最前線

「福島県大熊町」



ゼロからのまちづくり

震災からの復興過程において、
新たな挑戦を続けるフロンティア。

教育を中核に

まちづくりのど真ん中に「教育」を据え、
日本全国から注目を集める最先端の
教育ビジョンを掲げる自治体。

大学との共創

東京学芸大学との強固な連携協定
定に基づく、持続可能な教育実装
の舞台。



0歳からのシームレスな学び舎 「ゆめの森」

「私」がはじまる場所

【施設形態】

義務教育学校と認定こども園が完全に一体となった公立の教育施設。

【教育ビジョン「温故創新」】

一人ひとりに芽生えた好奇心（ゆめのたね）を見守り、「あそび」と「問い」からはぐくむ“熱中する探究者”の育成。

常識をリセットする「ゆめの森」の問い

チャイムがない
学校？(ノーチャイム)

四角い教室がない？
(概念のリセット)

学校の常識

先生を
「デザイナー」
と呼ぶ？

校舎全体が
図書館？(本の森)

本棚に飛び乗って
遊んでいいってホント？

今まで当たり前と思っていた学校の概念を、一旦リセットする空間。

境界線が溶け合う「ごちゃまぜラーニング」

0歳から15歳の子どもたちが
同じ空間で混ざり合う。

- 年齢、空間、遊び、学びの壁を取り払う。
- 「今」しかできない目の前の遊びに没頭できるインクルーシブなコミュニティ。
- 多様性の中で生まれる、ゆるやかな協働性と予想不可能な学びのダイナミクス。



あなたの「これからの教育」を 探究する場所



大熊町での実践
(最前線のリアル / ごちゃまぜの環境)



**未来の教育の
共同デザイン**
(マインドチェンジと新たな価値の共創)

このプログラムは、単なる「見学」や「視察」ではありません。
学芸大で蓄積した知を、正解のない最前線のフィールドでぶつけ、
あなた自身の「教育観」をゼロからイチへと創り変える機会です。

“教育”を広げてみませんか？

「教育の常識」を飛び越え、大熊町で一緒に新しい価値を創りましょう。